

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ご利用者様お一人おひとりの思いを聞き取り、寄り添って、その人らしさを大切にしてケアを行う事を、管理者と職員は共有し、実践に向けて取り組んでいます。	利用者、家族の要望等把握の上、管理者、職員間で話し合い、共有し、日々の実践に繋げている。玄関には理念を掲示している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍以前は、買い物に出かけたり、地域の保育園の子供たちや農業高校の生徒などと交流をしていましたが、現在は、ご利用者様の安全を考慮して、中断しています。	コロナ禍であり中断している。現在は以前から交流のある保育園、高校等に事業所お便り等郵送を行っている。地域の方からの野菜の差し入れ等の交流は以前と変わらず続いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍以前は、毎月傾聴ボランティアさんに来所していただいて、一緒にかかわりながら楽しくすごしていただいていたのですが、現在は、ご利用者様の安全を考慮して、中断しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍なので、会議はできていません。ホームで、文書を作成してお送りしています。返信用紙に、郵送、fax等でご意見をいただいています。	コロナ禍であり中断している。現在は介護度、入退所、ヒヤリハット、事故、行事等をきめ細かく書面で報告している。返信の意見が記載された内容を職員全員で共有し、実践に繋げている。	外部者も参加できる施設行事を中断せざるを得ない現状ですが、再開できる状況の際は直接行政、地域関係者等、外部者との意見交換、要望が出され、運営に反映できることを望みます。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍なので、会議はできていません。ホームで、文書を作成してお送りしています。	行政、地域包括支援センター等に書面で伝えている。返信内容を職員全員で共有し実践している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを作成し、職員を共有して、身体拘束をする具体的な行為について、理解するように努めています。	身体拘束マニュアルを共有し、身体拘束の具体的な内容等、毎月会議を開き、本人、家族に理解を得ている。リスクを考慮しながら拘束しないケアに繋げている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	コロナ禍なので、研修などに行けないので、以前の研修の報告書を参考に、職員同士で話しあっています。どんな小さな事でも、報告しチェックするようにしています。		

グループホームグリーンテラス愛 あさがお

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度をご利用していたご利用者様がありましたので、学ぶ機会がありました。今後支援していく中で、学んだ事をいかしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約改定の際は、入居以前に十分に説明し、ご理解、納得をしていただけるよう努めています。ご利用中にサービス内容、料金等その都度個別で対応が必要な時は相談の上、柔軟に対応出来るように努めています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居時に、ご本人様とご家族様の希望、要望を聞き取り、運営につなげています。入居後も個々の状況を考慮し、ご本人様、ご家族様と相談をし、何事も個別に対応するように努めています。	入居時には本人、家族の意見、要望を聞き運営に繋げている。施設計画を作る際、施設に対する意見、要望を定期的に聴取確認し、個別対応に取り組んでいる。コロナ禍であり今まで実施していたことを現在控えている面もある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議の場や個々に管理者が意見を聞き、提案された事を、代表と管理者で検討して、実践出来るように努めています。	各ユニット会議の場や個々に職員は管理者に運営に関する意見を出しやすい関係であり、管理者は意見を代表者と検討し実践に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、職員の実績、勤務状況を把握し、各自が個々の能力を発揮出来るよう、コロナ禍なので、ネットで研修をしてもらったり、有給休暇を取得しやすい労働環境を作る努力をしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の勤務期間を考慮し、研修を受ける機会を与えている。今は、コロナ禍なので、ネットによる研修のみです。研修内容は、職員の希望するものやっております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現在は、コロナ禍なので、ネットでの情報交換のみとなっています。		

グループホームグリーンテラス愛 あさがお

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントした情報をもとに、何事も、ご本人様のご意思を聞き、わからない場合は、ご家族様等へ相談し、安心してお過ごしして頂けるような関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご相談されるご家族様等の立場に立ち、ご本人様とご家族様の思いの違いがあっても、その思いに寄り添えるよう、支えられるような関係づくりに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様、ご家族様の状況を確認し、グループホームの特性を説明し、グループホーム以外の選択肢の方が適切だと思った時は、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホームでの生活の中で、ご本人様が出来ることを一緒に行っている。ご利用者様から、色々な知恵などを学ぶ事も多々あります。一緒に過ごし、お互いが、信頼できるように努めています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に、ご家族様にご本人様の様子を話している。病気になられたり、ご様子が変わった時は、ご家族様に電話やメール等を等で相談し、ご意見を聞きながら、ご本人様を支えていく関係づくりに努めています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在は、オンライン面会など対面以外の方法を中心に対応させていただいています。電話で話す。(毎日受付) 窓越しで対面しながら電話で話す。	家族、友人等オンラインでの面会。電話対応。施設での窓越しでの電話対応等を行っている。面会頻度の少ない場合は不足の品物を届けて頂きながら面会できる様な工夫を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様の状態や、相性などを考慮し、席を決めて、話や関わりを多く持てるように努めています。食事は全員でとり、家庭的な雰囲気作りに努めています。		

グループホームグリーンテラス愛 あさがお

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスのご利用が終了した後も、ご本人様とご家族様との関係を大切に、必要に応じて相談や支援に努めています。他施設へ入院、入所の際には、情報提供し入所前や入居後の相談、支援に努めています。			
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン</b>						
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何事も、ご本人様に聞きながら、希望や意向の把握に努めています。意思疎通が難しいご利用者様においては、ご家族に聞いた上で、できるだけご本人様の表情にも注目して、検討しています。	聞き取りシートを活用している。常日頃から本人、家族から意見を聞いている。居室担当を中心に本人希望を汲み上げている。家族とは細部に渡り電話連絡等にて情報共有に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービスご利用の経過等の聞き取りを行い、把握に努めています。入居後、どんな事もご本人様に聞きながら、知るよう努めています。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックを行い、食事量、排便周期や睡眠や活動の様子を記録し、申し送り時に報告して現状の把握に努めています。ご本人様の状況を熟慮して、ケアプランにつなげています。			
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	コロナ禍ではありますが、概ね2か月毎に話し合い更新しています。ご本人様やご家族様からの希望や意見があった時は、ケアプランに追加するか検討して対応しております。	状態が変化した時は随時、変化が見られない時も2か月に1回の評価を行い、本人、家族の要望等を確認しながらチームで介護計画を作成し実践に繋げている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフの気づきやご利用者様の状態変化は、個々の記録に記載し、職員の間でも、情報の共有は、朝と夕方の申し送り時に行っています。個別の記録をもとに、ケアプランの見直しをしています。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様やご家族の状況を考慮し、通院介助や送迎等必要な支援は臨機応変に対応しています。			

グループホームグリーンテラス愛 あさがお

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在は、コロナ禍なので、希望者だけ散髪のみ利用しています。			
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	病状により、紹介状にて病院受診時の付き添いは、基本ご家族様に対応していただき、送迎については、必要に応じて施設で支援しています。	入所時に希望するかかりつけ医を確認している。施設協力医の紹介状で受診する事もある。24時間365日対応の訪問看護ステーションと連携し施設協力医による定期往診、急変時の緊急対応が出来ている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎朝バイタルチェックをし、食事水分量、排便、睡眠、活動状況の申し送り情報で共有し、変化や異変があれば、訪問看護師に連絡、相談し、必要な時は、医師への往診につないでいます。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際は、ご本人様やご家族様との相談のうえ、安心して治療が受けられるように、病院関係者との情報交換や相談に努めています。			
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の対応について、ご本人様とご家族様に意思確認を行っている。又入院生活の中で、ご本人様の病状に変化があった時は、その都度、ご本人様ご家族様に相談して意向に沿った支援ができるように努めています。	入居時に重度化、終末期についての意思確認を行っている。施設での生活で状態把握を行い、病状変化時は随時意向確認しながら支援している。現在終末期の方を1人支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や緊急時の連絡先を貼りだし、医療職員に迅速に連絡できるようにしています。応急処置や初期対応は、医師や看護師に指示をもらったり、よくある事例をもとに確認し、実践しています。			
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	コロナ禍なので、避難訓練等は、施設だけで行っています。ホームでは、スプリンクラーの設置や自動通報装置を完備し、毎年業者に点検してもらい、災害時の体制を整えています。	避難訓練は施設内で職員、利用者で火災、地震訓練を実施した。実施状況は消防、警察、行政、地域に運営推進会議記録と共に報告している。スプリンクラー、自動通報装置の点検は専門業者が行っている。	夜間の火災、地震、水害等を想定しての訓練。災害に備えた備品等マニュアルを基に全職員に災害時の対応を共有されることを望みます。	

グループホームグリーンテラス愛 あさがお

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ユマニチュードを介護の基本とし、優しい言葉かけや視線を同じ高さにする。その人のペースにあわせるなど、高齢者を敬い、尊重する姿勢を大切に、笑顔で接することを心掛けています。	ユマニチュードを介護の基本としている。認知症等研修を重ね理解を深めている。一人ひとりに寄り添い、誇りやプライバシーに配慮した支援を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何事も、ご本人様に聞きながら、希望や意向の把握に努めています。意思を表に出すのが困難なご利用者様においても、ご家族様に聞いたり、ご本人様の表情などから、喜んで頂けることを検討しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調や気分等に配慮して、強制や抑制をしない、個々の選択を尊重してケアすることを心掛けています。外出や買い物等は、コロナ禍で現在は、中止しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替え時に洋服を選んでいただいたり、季節によって衣替えをし、季節感のある洋服を着ていただくよう支援しています。コロナ禍ですが散髪だけは、定期的に来ていただき、身だしなみを整えています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	コロナ禍や衛生面を考慮して、現在はスタッフがこなっています。	コロナ禍での対応を行っている。利用者と一緒に準備等行うことは控えている。食事形態、味付け、食器等工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の健康状態のチェックと共に、毎食の食事量の記録を行っています。水分摂取は声かけをして、確実に摂取しいただいています。又、好みの飲料を用意し、摂取を促すとともに必要に応じて記録をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医師や歯科衛生士に、必要に応じてみていただきながら、口腔ケアについて指導を受け、口腔状態の把握をしている。個々の状況に合わせて、毎食口腔ケアを行っています。		

グループホームグリーンテラス愛 あさがお

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	歩行ができない方や、一人で立つことが出来ない方も、尿意、便意を訴えることが出来ない方も、出来る限りトイレで排泄して頂けるよう支援しています。個々の排泄のリズムをみて、誘導を行う事を心掛けています。	一人ひとりの身体機能、認知症機能を把握しトイレでの排泄を実施している。排尿、排便時の本人からのサイン、パターンを見逃さず対応している。紙おむつ利用せず、リハビリパンツを着用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の有無を毎日記録し、必要な方は、下剤や座薬で排便を促しています。水分摂取量の少ない方に摂取の声かけをし、運動や入浴時のマッサージなど、便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	車椅子介助浴槽(特殊浴)を設置し、重度の方にも安心して入っていただいています。10時～15時の間で、ご希望する時間入っていただいています。	週2回の入浴を行っているが汗ばむ時期等必要に応じ更にシャワー・浴を行っている。浴槽は車椅子介助特殊浴槽、一般浴槽があり対応してる。拒否はなく入浴を楽しんでいる。特に皮膚の弱い利用者にはシャンプー、ボディーソープ等工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	フロアの起床時間と就寝時間は決まっていますが、個々の居室で、ご自分のペースで過ごされるのは自由です。食事の時間も決まっていますが、ご本人様の体調や気分により臨機応変に対応。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師が定期的に残薬や、ご利用者様の個々の状況の把握に来られるので、薬について副作用や飲ませ方などの説明をうけたり、相談したり、必要あらば、医師に報告して対応しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々に出来る事や役割を大切にしています。家事活動は、コロナ禍もあり制限されていますが、出来る事はやっています。ご利用者様の希望を聞き、検討して、活動やレクにつながるように努めています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在は、コロナ禍なので、施設内の散歩のみとなっています。	現在は近くのドライブで職員の説明を聞きながら車窓からの景色を見ながら季節を感じている。施設内で個別の対応を行っている。	

グループホームグリーンテラス愛 あさがお

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は、施設でお金の管理を行うご利用者様がいませんが、必要な時は、ご家族様に了解をとって、施設で立て替え払いをして後日請求という形をとって支援をしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様からご希望があれば、ご家族と相談して連絡できる様支援しています。手紙の返事を書ける場合は、やりとりが出来るように支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は、ご利用者様の写真や皆様の作品など飾り、話題に出来るように工夫しています。エアコンなど、ご利用者様が不快にならないように調節しています。各居室には、温湿度計を設置しています。天気の良い日は、順番に布団を干しています。	各ユニットの共有空間は職員、週4日の業者による清掃、トイレ、手すり等の消毒をし、ホール内の窓は常に開けている場所がある。温度調整、明るさ、におい、季節感のある装飾等、居心地よい環境を工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者様それぞれの状況等に合わせて、リラックスして過ごして頂けるよう、又独りぼっちにならない様に配置を考えている。相性の良い方など考慮して、席替えをする。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご本人様とご家族様と相談し、使い慣れた物や馴染の家具などの持ち込みを提案しています。なるべくご本人様が安心できる空間作りを心掛けています。	入居時に本人や家族の意向、馴染の物等考慮しその人らしい居室づくりに努めている。日中部屋の窓を長時間開け換気を行っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室、ご自分の居室にお名前を貼り、場所がわかるようにしています。通路は広く、障害物を置かず、車椅子の方も安心して通れるようにしています。		